

# 同推協だより

No.124

2020年 10月発行  
神前地区同和教育推進協議会  
Email: kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp

今年度は、予定されていた企画が実施できないまま今に至っています。

よって今回の「同推協だより」は、投稿して頂いたメッセージが中心です。やっかいな新型コロナウイルスは、人類にとって大きな試練であり、人間性を問われるテストと言われています。

「私は、どう考え、どう行動すべきか・・・」を一緒に考えていきましょう。



「住みよい町、住みたい町、神前」を合言葉に、地域のつながりによって「差別」について語る事が日常的になり、部落差別の解消に向けて神前が一丸となりつつあります。

委員研修20年目の節目となった本年ですが、新型コロナウイルス感染症の拡大で、心の片隅では「感染の恐れはない」と思いつつ、部落問題の忌避意識と同じように、発症したら「周りからどう見られるかわからない。」という世間体を気にしながらの自粛となっているような気がしています。今は、考える時間はたっぷりあるけれど、誰かに話して確かめ合う、共有し合うことができません。早く地域のみんなと話して確かめ合い、互いに共有し合えるような研修会や懇談会が開催される日を待ち望む日々です。  
＜研修部員＞

## ＜人権カルタから、思ったこと・・・研修部＞



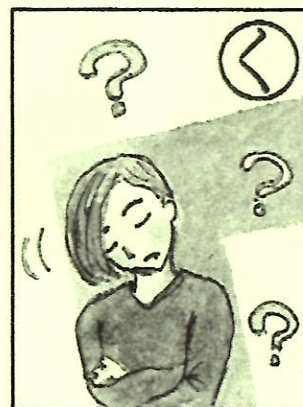
「自分は差別をしていない」とか「差別をしてしまっている自分」に気づいていない。ふとした日常の中に差別は潜んでいる。家庭や職場、近所の人、友達との会話の中で気づき返していくことが、自分にできる差別をなくす行動である。

しかし、一番大事なのは「差別している人が悪い」と他人のせいにするのではなく、最終的には、自分がどうするか。啓発活動をしていく中で、自分の中の差別心に気づき、向き合い続けることが、差別をなくしていく行動そのものだから。

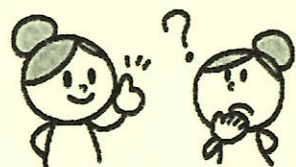
のぞいてよ  
自分のなかの 差別心



おかしいと思ったときは  
うなずくな



首かしげ  
それおかしいとサインだし



## ＜民生委員さんからのメッセージ＞



お一人暮らしの高齢の方から

「通院の付添の為に 息子が首都圏から帰省するけどご近所の方が嫌がらないか不  
と相談がありました。全国的に移動規制が解除された時でしたが、心配なら息子さんと  
緒の時は、家の中でもマスクの着用や手洗い・消毒を心がけることをお勧めしました。  
ご自分が感染することよりも、ご近所の反応を気にさせてしまう状況に、偏見・差別の影  
がチラホラ・・・ 何かおかしいと感じます。

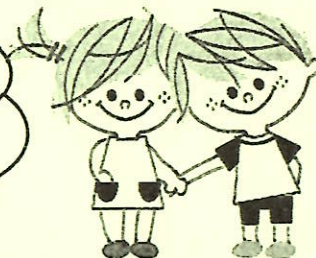
帰り際「何ヶ月ぶりかで息子さんとお会いできるの楽しみですね」と  
言うと、表情がぱっと明るくなり嬉しそうに微笑んでみえました。  
どうか この幸せを温かく見守って頂きたいと感じました。



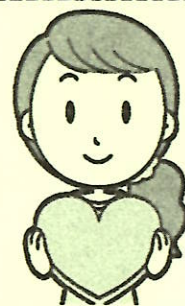
## ＜2019年度の「人権標語」より＞

手をつなぎ 心をつなぎ 気が付こう 見えない差別をしている心に

現在のコロナ禍で、人と人の距離が離れていますが、心の距離まで離れてい  
かないようにしたいですね。



「わたしさあ・・・」 言える自分と 聞くまわり



落ち込んだり、傷ついたりした  
時、側には自分のことを聞いてく  
れる仲間がいることで、心が楽に  
なりました。

同推協啓発委員さん 募集中!



啓発委員になって頂ける方は市民センター団体事務局入口前に設置してあるポ  
ストにお名前を記入して頂き投函して下さい。 申込用紙は置いてあります。

【問合せ先】 地区市民センター内 団体事務局 ☎327-1501 (午後受付)